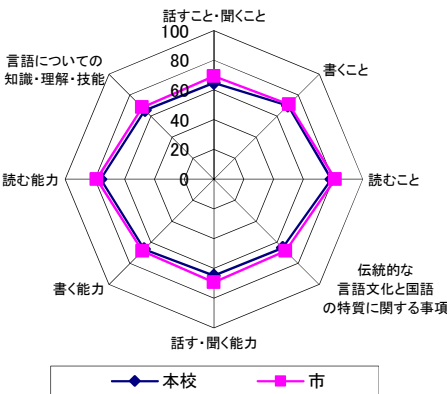


宇都宮市立新田小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.7	69.3	73.4
	書くこと	70.1	71.3	74.6
	読むこと	78.9	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.2	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	64.7	69.3	73.4
	書く能力	66.5	68.1	71.7
	読む能力	76.2	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	65.6	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

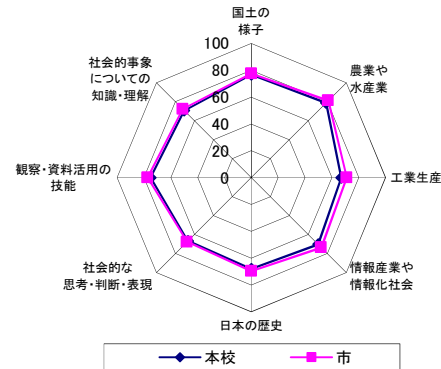
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率、市より4.6ポイント下回っている。 ●話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめる問題の正答率は22.3%で、市の平均正答率を7.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し手の意図や話合いの観点を踏まえて聞くことや、メモを取る等与えられた情報を整理するための工夫をすることを継続的に指導する。また、他教科の学習活動においても同様の機会を増やすよう心掛ける。 ・授業の中で、友達の意見を聞き、それに対する自分の意見を述べたり、自分の考えを深めたりすることができるよう、意図的に話合い活動を取り入れ、支援する。
書くこと	平均正答率は、市とほぼ同程度である。 ○自分の意見を明らかにして文章を書く問題は、94.2%の児童が正答している。これは、根拠を基に考えをまとめるよう指導してきた成果と思われる。 ●指定された長さで文章を書く問題では、市の平均正答率を3.2ポイント下回った。	・根拠を明らかにして自分の意見をまとめる取組を、今後も継続して行い、他教科においても活用していく。 ・作文指導の際、言葉や字数に制限をつける等、条件に即した文章を書く学習活動を取り入れる。また、書いたものを必ず読み直すことを習慣化させ、発達段階に応じて自分で推敲できるように指導する。
読むこと	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題は、市の平均正答率とほぼ同程度であった。 ○物語文や説明文の読み取りで、活用を見る問題では、いずれも市の平均正答率をやや上回った。 ●物語文に比べて説明文を的確に読み取る問題が、市の平均正答率を下回った。	・説明文の読み取りでは、接続詞や段落の構成(序論→本論→結論)に着目し、筆者が何を根拠に考えを述べているのかを意識しながら読み進める。また、それを共有し、読解が苦手な児童にも分かる授業を展開する。 ・物語文では、印象に残る言葉・文章・場面を見つけ、そこに反映されている作者の思いや意図を探る読み方をさせる。また、作者や内容に応じた本の紹介や並行読書なども随時行うようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○三字熟語の構成・同音異義語・第6学年配当漢字の読みの問題は、市の平均正答率を上回った。 ●第5学年配当漢字の書きについては、すべての問題で市の平均正答率を下回った。 ●敬語(謙譲語、尊敬語)の問題は、どちらも市の平均正答率を下回った。	・既習(特に第4.5学年)の言語事項や敬語については、朝の学習の時間に小テストを行ったり、家庭学習で繰り返し練習したりするなど、知識の定着を図る。さらに、敬語については、日常生活において正しい使い方ができるように、時と場に応じた指導を丁寧に行うようにする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.7	77.5	74.0
	農業や水産業	78.8	81.1	73.7
	工業生産	67.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	70.4	73.7	63.2
	日本の歴史	68.1	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.8	67.7	63.1
	観察・資料活用・技能	75.1	77.3	75.5
	社会的な思考・判断・表現	70.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

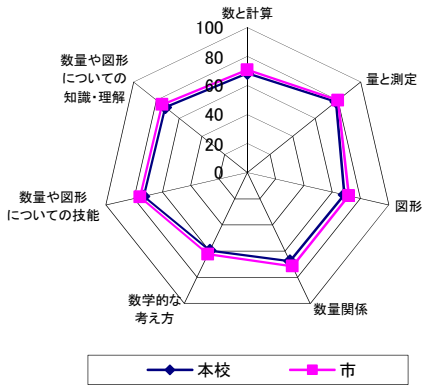
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市と同程度である。 ○雨温図と都市の位置関係・森林を守るための間伐について正答した児童の割合は8割を越え、市の平均正答率より5ポイント程度上回った。 ●日本周辺の海洋名についての正答率は、市の平均正答率より6.3ポイント下回った。 ●自然災害が起きた際の、自助の大切さを短文で表現することができた割合は67.0%で、市の平均正答率より5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・わが国の領土や領海、近隣の国については、プリント等で復習し、定着を図るようにする。 ・社会科以外の教科でも、表やグラフ、資料を読み取り解釈する活動を丁寧に扱い、条件に合う情報を見出す力を養っていく。 ・日頃からテレビや新聞のニュースの話題を提示し、日本の国土の様子に関して興味、関心をもてるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、やや下回っているが、他領域別と比較すると正答率は高いと言える。 ○米の生産のさかんな地域や、農家の人々が抱える問題について正しく記述した児童の割合は8割以上である。 ●グラフに記載された複数の折れ線の中から、日本の食料自給率だと思われるものを選ぶ問題の正答率は81.6%であるが、市平均正答率より7.1ポイント下回った。 ●複数のグラフや資料から、日本の食料生産がかかえる課題を読み取る問題は、市平均正答率とほぼ同程度だが、校内正答率が57.3%である。	・デジタル教科書にある可動式の資料を効果的に使い、提示の仕方を工夫することにより、多様な観点から読み取る力を身に付けさせる。 ・複数の資料から読み取った情報について、文章でまとめる活動を効果的に取り入れることにより、知識の定着を図る。 ・授業の中だけでなく、日頃から時事問題の話題を提示したり、他教科との関連を図ったりすることにより、社会的な課題や現状を意識させる。
工業生産	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ●化学工業の製品を選ぶ問題の正答率は、市の平均正答率と同程度だが、正答率は65.0%である。 ●工業地帯・工業地域の立地について資料を読み取り考える問題の正答率は68.9%で、市の正答率より6.5ポイント低い。	・工業製品の区別については、言葉でまとめるだけではなく、身の回りにあるものや写真を使い、仕分けする学習活動を取り入れる等、視覚的に理解させる工夫をする。 ・社会科で使う用語や、学習のポイントとなる言葉を使うことを条件にする等、記述をとおして知識理解を図るようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、よりやや下回っている。 ○身のまわりのメディアの種類についてはよく理解ができており、市の平均正答率よりやや高い。 ●情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考える問題では、市平均正答率より10.1ポイント下回った。	・関連図を見て、たくさんの情報の中から必要な情報を読み取り、短い言葉で説明できるような学習活動を取り入れる。 ・社会科以外の教科でも、資料を読み取ることを丁寧に扱い、条件に合う情報を見出す力を養っていく。
日本の歴史	平均正答率は、市と同程度である。 ○聖徳太子と聖武天皇の政策や、安土桃山時代と江戸時代の政策や文化についての正答率は、市の平均正答率とほぼ同程度であった。 ●大和朝廷による国土統一の様子について、資料をもとに考えて表現する問題の正答率は25.2%で、市の平均正答率と同程度であった。 ●元の攻撃を受けたときの執権を答える問題や、室町時代の「能」を漢字1文字で答える問題の正答率は5割程度で、市の平均正答率より7～9ポイント下回った。	・各時代の歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績を関連付けて学ばせる。また、資料と身に付けた知識を関連付けたり、使用する用語や漢字、字数制限等の条件に合う記述をしたりすることにより、基礎的な知識の定着を図る。 ・前時の復習をする時間を確保し、習熟度を確認する。また、政策・文化などのカテゴリー別に出題する等、出題方法を工夫する。 ・体験活動や出前授業等を取り入れ、その時代の文化に興味をもたせるようにする。 ・教科書を読み込むことにより、史実を物語のあらすじのように捉えさせる。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.5	70.8	65.9
	量と測定	78.3	79.9	77.0
	図形	68.6	71.8	74.6
	数量関係	67.7	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	59.6	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	73.2	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	72.1	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

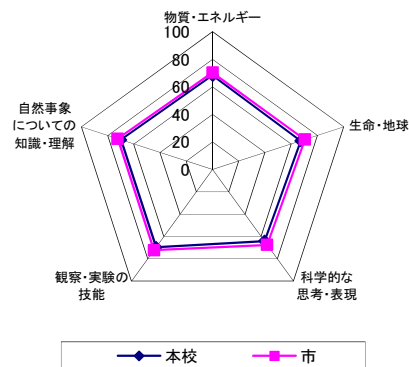
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○分数÷分数の計算についての正答率は90.3%で、市の平均正答率より4.3ポイント上回った。少人数学習や習熟度別学習の成果が現れたと思われる。 ●小数倍についての問題の正答率は47.6%で、市の平均正答率よりも6.5ポイント下回った。 ●小数や整数の混ざった計算を用いる文章問題は、40.8%で、市の平均正答率よりも13.5ポイント下回った。	・「単位量当たりの大きさ」では、「もとにする量」や「比べられる量」の意味について、言葉や図で分かりやすく説明する。立式する際は用語を書き込む等、丁寧な指導を心掛ける。 ・文章問題については、図や数直線で表す等、問題の場面を可視化する活動も取り入れる。また、多様な問題に取り組ませることにより、多くの情報から必要な条件に気付いたり、式の意味を理解したりする力を育てていく。 ・求めた答えが示された条件に合っているか確かめる等、粘り強く取り組ませる。
量と測定	平均正答率は、市と同程度である。 ○「平均」を求める問題の正答率は85.4%で、市の平均正答率より若干上回っている。基本的な公式を使い、問題を解くことはできる。 ●図形の面積を求める式から、その求め方を表した図を選ぶ問題の正答率は67.0%で、市の平均正答率より5.7ポイント下回っている。論理的に説明することに苦手意識をもつ児童が多い。	・何を求めるのか、また、答えを求めるための条件は何かという視点で問題文を読み、発達段階や必要に応じて線を引く等、意識付けを図る。 ・正解を導き出すための過程を大切に、多様な考え方ができる問題に取り組ませる。 ・発展的な問題に取り組む際、習熟度にかかわらず、自力でできるところまで考えさせる。また、意見交換の場を設け、根拠をもとに考えを深めるようにさせる。
図形	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○五角形の内角の和を求める問題の正答率は、市の平均正答率より12.0ポイント上回ったが、校内正答率は6割程度である。 ○点対称な図形の対応する点の問題の正答率は、9割である。 ●三角形の内角の和を活用して外角を求める問題の正答率は58.3%で、市の平均正答率よりも11ポイント下回っている。 ●線対称な図形の対称の軸を求める問題の正答率は36.9%で、市の平均よりも15.1ポイント下回っている。	・教科書にも多角形の内角の和を求める問題はあるが、1つの考え方しか載っていない。今後は、1つの考えだけを教えるのではなく、他の考え方はないか、どの履修内容が活用できるかという視点で取り組み、思考力の向上を図る。 ・三角形の内角の和を活用する問題については、すでに分かっている数値や不足している数値を書き込む等、情報を整理しながら考えさせる。 ・図形の学習では、具体物や半具体物を用いて体験的に学習を進め、算数的な感覚を十分養うようにする。また、必要に応じてデジタル教材を利用し、特徴や性質について視覚的に捉え、知識の定着を図る。
数量関係	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○比例の関係を、XとYを使って式に表す問題の正答率は89.3%で、市の平均正答率と同程度である。 ●2つの文字を使って表された式の意味については5ポイント程度、文字の値を求めることについては9ポイント程度下回った。 ●反比例の表を完成させる問題の正答率は69.9%で、市の平均正答率よりも6.3ポイント下回った。 ●いろいろなグラフの読み取りに関する問題の正答率は、市の平均正答率と同じ34.5%であった。	・「□や△を用いた式の学習」が「XやYを用いた式の学習」へと繋がることから、□や△が表すことを言葉で表現させたり、テープ図に数値や言葉を入れたりする学習を丁寧に扱う。また、反復練習をすることにより、定着を図る。 ・比例や反比例については、グラフや表から読み取れる数値をもとに文字の式を導き出したり、グラフや表から読み取れることを言語化したりするなど、他教科との関連や日常生活に即した学習ができるように指導していく。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.3	70.3	69.0
	生命・地球	67.2	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	64.1	67.5	66.4
	観察・実験の技能	69.7	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	69.8	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○食塩を溶かす前と溶かしたあとの全体の重さ、空気中の気体の体積の割合、水溶液に個体がとけているかどうかを調べることにについては、市の平均正答率を上回った。観察や実験の結果をしっかりとノートにまとめた成果と思われる。 ●ふりこの周期はふりこの長さ依存することを活用して考える問題の正答率は58.3%で、市の平均正答率より11.9ポイント下回った。 ●電流の向きを逆にしたときの電磁石の極についての正答率は54.4%で、市の平均正答率より17.4ポイント下回った。	・自然事象や実験結果で使う用語は、単に「言葉」として覚えるのではなく、活用できる知識として理解させる必要がある。学習を振り返る際、本時の学習で用いたキーワードを入れて考察させ、言語化したものを共有すると共に全体で確認することにより、知識の定着を図るようにする。 ・児童が自分自身の課題として問題を捉え、目的意識をもって実験に取り組めるような学習の流れを定着させ、科学的な思考や基本的な知識の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、市よりやや下回っている。 ○「植物の発芽と成長」「生物とかんきょう」の記述で答える問題において、市の正答率をやや上回った。授業において、考えやまとめを記述する活動を取り入れてきた成果と言える。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」では、「拍動」や「腎臓」についての正答率が、市の平均正答率よりやや下回った。 ●月と太陽の位置関係を問う設問では、市の平均を10.8ポイント下回った。学習したこと、普段の生活の中での自然現象を結び付けて考えることが難しい。	・何を調べるための実験なのかを明示し、そのために必要な根拠や条件について整理しながら活動できるよう指導する。 ・実験・観察の結果をまとめたり、考察をしたりするときは、根拠を明らかにするよう指導する。また、まとめる時間を今後も十分に確保する。 ・内臓の動きや働きや、月と太陽の位置関係および月の見え方については、体験的・実感的に理解できるよう、教材教具を工夫する。

宇都宮市立新田小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「朝の学習の時間」の有効活用	・国語では「言語の知識・理解・技能」についてのプリントを、算数では「宮っ子ステップアップシート」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図っている。 ・担任以外の教職員が支援に入り、TT体制で取り組んでいる。	・国語では、敬語の適切な使い方の正答率が、謙譲語は30.1%で10.7ポイント、尊敬語は13.6%と、市より2.2ポイント下回っている。また、第5学年配当漢字の正答率もやや下回っている。 ・算数では、「量と測定」以外の領域の正答率が、市に比べ、やや下回っている。
「本時の振り返り」や「学習のまとめ」の工夫	・「本時のめあて」を明確に示し、「学習のまとめ」に向かう授業展開を工夫することで、分かる授業、自ら学ぶ授業を目指し、児童一人一人が自分の言葉で考えをまとめられるように指導している。	・「とちぎっ子学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果よりも正答率は向上したが、「おおむね満足」の段階には到達していない。
思考を広げたり深めたりするための学習形態の工夫	・生活体験に基づいた導入や学習課題の設定を工夫する。 ・自分の考えを整理し、根拠をもって表現する時間を確保する。 ・友達との意見交換の場を有効に取り入れる。	・理科では、既習事項を活用したり情報を整理したりして、自分の考えを表現する問題の正答率が4～6割程度である。(実験結果が違う理由の推測をする問題、他教科や生活体験との関連がある問題等) ・算数では、求めた答えについて根拠をもって説明する問題の正答率が3～5割程度である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基本方針として、「基礎・基本の定着と学力の底上げ」「自ら学びに向う授業展開の工夫」「望ましい学習態度と習慣の定着」の3点について、根気よく取り組んでいく。

「基礎・基本の定着と学力の底上げ」については、本時の学習と関連した既習事項を導入に取り入れる等、知識・技能の定着と活用を意識した授業展開を工夫する。授業の終末では、確認ミニテストや記述式の学習のまとめをさせ、次時に生かすことにより、学力の定着を図る。また、「朝の学習の時間」のより一層の充実を目指し、担任以外のスタッフの支援体制と弱点克服のための学習プリントを整え、粘り強く取り組ませる。

「自ら学びに向う授業展開の工夫」については、学校課題である理科を中心に、全教科を通して、児童が目的意識をもって進んで課題解決に向かい、対話により思考力を深めていけるような授業展開の研究を進めていく。

「望ましい学習態度と習慣の定着」については、校内での学業指導、家庭での「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」の活用等、学校と家庭との連携を強化し、共通理解のもと進めていく。